

## JR 小樽駅：港町への入り口

鉄道を使って小樽にやって来ると、小樽駅から出てすぐ目の前に港が見えます。小樽駅から伸びている中央通りは海に向かって下り坂で、冬になると駅舎の前から強い西風に煽られて防波堤沿いに波が打ち寄せているのが見えます。20世紀初めには、小樽駅に降り立つと、数十隻の帆船や蒸気船が港に停泊し、バージ船が岸まで荷物や乗客を運んでいるのが見えていました。

### 新たな路線

小樽駅は1903年に開業し、翌年には北海道最南端の町である函館まで路線が開通しました。小樽駅が建設される前までは南小樽駅がこの町の主要駅であり、小樽港北側にある石炭積出用の棧橋とつながっていました。

### 発展する町のための近代的な駅

現在の駅舎は鉄骨鉄筋コンクリート造りで、1934年に完成しました。左右対称に配置された玄関ホールのアールデコ風デザインは、当時の大きな駅舎でよく使われていました。

列車が入ってくると、駅の入り口にある真鍮製の鐘を鳴らす慣例は1965年ごろまで続きました。現在もこの鐘は設置されていて誰でも鳴らすことができ、人気の撮影スポットとなっています。

エントランスホールの採光と照明 駅舎正面にある背の高い6つの窓からは自然光があふれ、地元のガラスメーカーである北一硝子により寄贈された333個のガラスランプも玄関ホールを彩っています。現在は、これらのランプは電気灯ですが、北一硝子が1901年に製造を開始した吹きガラス（息を吹き込んでガラスを成形する技法）のオイルランプに似せてあります。

### 4番ホームの思い出

4番ホームは1934年に行われた改築や、エスカレーターや追加された照明など、最近の増設を除けば、1903年当時の姿とほとんど変わっていません。1903年当時、プラットホームに取り付けられていた屋根の骨組みや支柱に使用されていた元の鉄骨梁は、海外から輸入されたものでした。4番ホームにある支柱の1つには、「BV & Co Ld」の社名と1902年という日付が刻まれており、イギリスのヨークシャーにあるボルコウ・ヴォーン株式会社から調達したものです。ボルコウ・ヴォーン株式会社は、当時世界最大の鉄鋼メーカーの1つでした。

4番ホームの北端には、人気俳優だった石原裕次郎（1934年-1987年）が長編テレビドラマシリーズの撮影のために小樽を訪れたことを記念して、額装された等身大パネルが置かれています。石原裕次郎は神戸で生まれましたが、幼少期の数年を小樽で過ごし、その後も頻りに小樽を訪れていました。この4番ホームは「裕次郎ホーム」とも呼ばれています。